

様式第1号

会 議 録

会議の名称	平成28年度第1回所沢市いじめ問題対策委員会
開催日	平成28年4月26日(火)午前9時から午前10時30分
開催場所	所沢市役所 601会議室
出席者の氏名	赤堀侃司・川地康子・菅野純・齋藤真希子・島吉孝・嶋田洋徳 須田昭仁・武弓清貴・福田春美・山口卓男
欠席者の氏名	小林治・笹島千代子
議 題	(1) いじめ問題対策委員会について (2) 所沢市教育委員会の生徒指導、教育相談について (3) 所沢市の児童生徒のいじめ、不登校、暴力等について (4) その他
会議資料	次第 平成28年度所沢市いじめ問題対策委員会委員名簿 いじめ防止対策推進法 所沢市いじめ問題対策委員会条例 所沢市の現状について 所沢市いじめ防止基本方針 所沢市いじめ対応マニュアル
担当部課名	教育委員会 教育長 内藤隆行 学校教育部 部長 田中和貴 学校教育課 課長 堺利彦・主幹 結城尊弘 副主幹兼指導主事 山下豊・指導主事 伊東真吾 指導主事 菅間信一 安全安心対策推進員 内野正行 安全安心対策推進員 平塚俊夫 生徒指導・いじめ問題対策員 舘下正明(欠席) 学校教育相談員 金澤広明(欠席) 教育センター 教育相談室長 中村啓 指導主事 大庭真紀子 - 連絡先 - 学校教育課 04-2998-9238 教育センター 04-2923-2396

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
内藤教育長	委嘱状の交付
結城主幹	開会
内藤教育長	挨拶
各委員・事務局	委員自己紹介並びに事務局紹介
委員	委員互選による委員長、副委員長の選出 委員長：菅野委員 副委員長：武弓委員 に決定
菅野委員長	会議の公開・非公開：公開とする。 会議録の記録方法：要約方式とし、発言者名は公開とする。（傍聴者1名） 会議録の確定方法：委員長の承認により確定する。 以上のことを承認されたい。
全委員	承認
結城主幹	平成27年度第1回委員会会議録について確認
菅野委員長	議題（1）～（3）までを事務局より一括して説明し、その後、質疑応答及び協議とすることを確認
結城主幹	議題（1）いじめ問題対策委員会について 資料に基づき、「いじめ防止対策推進法」「所沢市いじめ問題対策委員会条例」「所沢市いじめ問題基本方針」等について説明。
山下副主幹	議題（2）所沢市教育委員会の生徒指導、教育相談について スライド資料に基づき、本市の体制について説明。
菅間指導主事	議題（3）所沢市の児童生徒のいじめ、不登校、暴力等について 資料に基づき、所沢市の現状について説明。
山口委員	認知件数の数え方は難しいが、本市の場合は安定しているように見える。多く認知し、多く解決していると見てよいのか。また、人口比は他の自治体と比較してどうか。
結城主幹	文科省が示した基準を生徒指導主任会で確認した。さらに小さいいじめも見逃さないという視点に立っている。本市の認知件数は県内でも多い方であり、これはよい傾向ととらえている。

山口委員	解決の判断基準は。
結城主幹	児童生徒、学校現場、保護者の3つの視点で判断している。また、被害加害双方の見届けを行うとともに、アンケート等を活用し客観的な見方も大切にしている。
山口委員	数字の数え方として、解決が年度をまたがるということもあり得る。
赤堀委員	いじめは小6の多さが目立つが、不登校は中学校以降が目立つ。発生のシステムに違いがあるのか。
島委員	不登校の子は、人間関係や学業等、いろいろな面で悩んでいる。また、年度によっても学年の傾向に違いが見られる。
嶋田委員	いじめと不登校では基本的な構造が違っていると認識している。また、不登校は中1ギャップ、いじめは最高学年の解放的な部分と見ることもできなくはないが、個々のケースの違いもあり、数字だけで判断することは難しい。こうしたデータは大切だが、現場の先生方の声に耳を傾け精査していくことが欠かせない。
川地委員	不登校の数について、隣の入間市が極端に少ない。人権教室を多く行っているのが入間市ということもあり、分かることがあれば知りたい。
結城主幹	所沢市も減少傾向にあり、中学校の発生率が2%台まで減少してきている。近隣の市町村との情報共有はしているが、本市の組織を機能させ、さらに減少できるようにしたい。
山口委員	不登校は学力や進学に絡む問題が大きい。所沢市は進学に熱心な家庭が多いと推測され、子どもへのプレッシャーも大きいかもしれない。この委員会はいじめ対策委員会なので、不登校の数について大きく取り上げなくてもよいと考える。
川地委員	いじめと不登校は関係があり、いじめから孤立化し、不登校に至るパターンもかなりあると思われる。
山口委員	関係あるものも当然ある。一方、学習や受験に起因するものは連動していないと言える。
菅野委員長	一つ一つの事例と取組の精査が大切。その中でいじめと関係する不登校、そうでないものがはっきりしてくると考える。
福田委員	民生児童委員として学校の先生と話をする、保護者の問題が9割を占める。また以前と比べ、現場の先生は小中連携をよく意識して取り組んでいる。
島委員	小中連携とともに、幼保小連携も意識されている。相談活動の中ではその視点を保護者にも伝え、よいスタートが切れるよう、事前に教室を見に行く等、

	進学先の学校に働きかけてもらうようにしている。
嶋田委員	スクールソーシャルワーカー（以下 SSW）、スクールカウンセラー（以下 SC）、心のふれあい相談員（以下相談員）の役割分担について、各市が模索しているところではあるが、所沢市としてはどのように考えているか。
中村室長	SC と相談員は全校配置、SSW は今年度から 2 名配置。SSW に関しては家庭環境の要因が主訴として上げられるケースについて、学校からの要請により派遣している。SC と相談員は学校教育課の所管だが、今年度より相談員の研修については教育センターが担当している。SSW は教育センターが所管している。
田中部長	各学校で生徒指導部会、教育相談部会を開き、対象児童生徒の状況に応じて、校内では相談員が面談や家庭訪問をする、専門的な支援が必要な場合は SC に関わってもらう、他機関連携の必要性が強い場合は教育センターを通して SSW を派遣するといった形で行っている。しかし、SSW の数がまだ少ないということもあり、他の役割にその部分を担ってもらっているケースもある。今後整備していきたい。
山口委員	困難なケースに対応するためには、人員配置を手厚くすることも必要と考える。
内藤教育長	SSW については、20 年程前に所沢市は先進的な取組をしていた経緯がある。社会資源を生かし、他機関等の力を借りながら、学校の先生とその組織の力を生かして対応することが大切と考える。それぞれの役割分担については、今後の課題である。
須田委員	いじめの認知件数について。中学 3 年生だけの経年変化を見ると増えていると感じるが、例えば中学校 1 年生が翌年度 2 年生になり、さらに次の年は 3 年生になるというように年度を追ってみると減少しているという見方もできる。同様に、進級するごとに認知件数が増えている子たちもいる。また、いじめが少ない学校や自治体に焦点を当て、未然防止策を検討していくことも必要と考える。
結城主幹	生徒指導部会や教育相談部会等の場で、本人・学校・家庭のそれぞれの要因について検討し、解決に向けて取り組んでいる。いじめによって不登校になるケースは少ない。
山口委員	市として調査すると結果はこのようになってくるが、学校単位で見えていくと違った部分も見えてくると思われる。ある時期には、ある学校に集中して発生し、違う時期には別の学校に集中するということもある。どのような調査をすべきかは難しい。
菅野委員長	中学 3 年生で発生件数が減っているのは、進路に直面したり、発達的に大人になってきたりということも関係しているように思う。また、いじめが少ない学校を取り上げ、先生たち、子どもたち、地域の努力を見ていくという視

田中部長	<p>点は非常に大切である。</p> <p>学級や居場所、絆づくりを大切にして取り組むことで、いじめや不登校も少なくなると考えている。どの学校も学び創造プラン等を通して、子どもたちが周りのバックアップを得て自分のよさを発揮し、ストレスに立ち向かっていくことができるようにし、未然防止に努めている。</p>
福田委員	<p>オープンな学校、実情を話してくれる学校は問題が少ないように感じる。</p>
結城主幹	<p><u>議題（４）その他</u> 今後の予定について確認。</p> <p>閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>